

## 第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

第三者評価機関名	福祉サービス評価センターさが
----------	----------------

評価調査者研修修了番号	S15069
	S25203

<b>施設名等</b>	
名称：	済昭園
施設長氏名：	小佐々良徹
定員：	50名
所在地(都道府県)：	佐賀県
所在地(市町村以下)：	嬉野市塩田町大字五町田甲3443番地
T E L：	0954-66-2138
U R L：	<a href="http://www.saisyouden.jp/">http://www.saisyouden.jp/</a>
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	1946/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人済昭園
職員数 常勤職員：	28名
職員数 非常勤職員：	2名
専門職員の名称(ア)	社会福祉士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(イ)	保育士
上記専門職員の人数：	15名
専門職員の名称(ウ)	心理療法士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(エ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(オ)	調理師
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	19室(男子14室、女子5室)、小規模グループケア4室
施設設備の概要(イ)設備等：	地域交流室
施設設備の概要(ウ)：	子育て支援短期利用事業室
施設設備の概要(エ)：	

<b>理念・基本方針</b>	<p>入所児童の健全育成を目的とし、入所児童が社会の一員として責任を果たすよう導く為に仏教精神を取り入れ、礼儀、感謝の心を養い、児童一人一人の個性や問題点を把握し、愛情を持って指導・援助にあたる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．和顔愛語(いつも明るく 優しい言葉)</li> <li>2．照顧脚下(毎日反省 明日への糧)</li> <li>3．一期一会(今日 今は再び戻らず)</li> <li>4．主人公(己も 他人も大切に)</li> </ol>
----------------	---

<b>施設の特徴的な取組</b>	施設内虐待防止に対する取組みとして、月1回入所児童から聞き取りを実施し、外部委員(中学校校長、小学校校長、児童相談所副所長、元法人理事)及び内部委員による検討会『子どもを守る会』を隔月で行っています。
------------------	--

<b>第三者評価の受審状況</b>	
評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2017/9/6
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2018/2/1
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

## 総評

### 【特に評価の高い点】

- 福祉人材の確保・育成のため法人全体で人材育成委員会を組織し、福祉人材の雇用、専門職の確保を初め、新採から中堅、指導に当たる幹部職員、各専門職員と階層別、分野別にわたる体系的な研修が計画的に実施されている。
  - 健康診断を初め、ストレスチェックの実施とそのフォロー、リフレッシュ休暇（連続有給休暇）利用促進など有給休暇の取得促進、育児・介護休業制度の利用促進など働きやすい職場環境づくりに努められている。また、今年度から永年勤続表彰制度の充実も図られている。
  - 法人運営の透明性を確保するためホームページを活用して法人運営に係る理念や事業計画・事業実績、予算・決算状況などを公開するとともに施設内での閲覧に供している。また、必要に応じ、パンフレットなどにより配布されている。
  - 少年野球やパーレーボールなど地域のスポーツクラブへの子ども達の参加、子ども達の地域での買い物、学校友達が遊びに来所するなどの日々の活動とともに、夏祭りなどの地域に開かれた法人の行事や地域行事など相互に交流する機会の確保に努められている。また、学習ボランティアの来訪などボランティアの受け入れもなお一層積極的に取り組みたいと考えられている。
  - 感染症予防等の安全衛生に関するマニュアルが整備され、職員への周知、子ども達への日頃の衛生・健康管理に関する手洗い・うがい等の実践取り組みがなされている。厨房職員はもとより全ての職員及びお弁当づくりや調理実習の機会がある高校生以上の子ども達全員の毎月の検便検査も実施されている。
  - 災害時における子どもの安全確保のため防災計画が整備・周知され、消防や警察と連携した定期的な訓練、法人全体で自衛消防隊を組織し、毎月の避難訓練の実施、小学校低学年児童の登下校時の見守りなどの取組が行われている。また、備蓄品リストに基づく災害対策用品の備蓄管理、自治体との災害対策協定に基づく連携・協力も図られている。
  - 養育・支援の標準的な実施方法については、園の基本方針とともに基本的な援助指針が整備され、職員への配布、職員会議等での周知が図られている。また、養育・支援の実施状況は、ケース記録や日誌などで園長以下関係職員は、随時その状況を閲覧・把握することができる。
- ### 【改善を求められる点】
- 年度計画は作成されているが、法人の中・長期的な計画が明確されているとは言い難い。定員や施設の一部改築を踏まえた構想もこれからの課題とされているが、将来的課題に対しての取組結果の評価・分析が必ずしも十分なされているとは言えず、中・長期計画策定に向けた組織的取り組みが望まれる。
  - 養育・支援の質の向上に向けて第三者評価や毎年の自己評価を実施し、職員会議等での論議、職員間の情報の共有など評価結果に基づく改善への取り組みはみられるが、評価結果や改善計画等の記録・整理が把握しにくい状況にあり、記録・整理の充実が望まれる。
  - 絵本読み聴かせや学習ボランティアなどボランティアの受け入れに積極的に取り組まれているが、ボランティア受け入れに関する基本姿勢や受け入れにあたっての手続きやルールが明確化されていないのでこれらを明確にすることが望まれる。
  - これまで、地域の福祉ニーズを踏まえた子育て支援短期事業（ショートステイ事業及びトワイライト事業）などの取り組みがなされており、民生・児童委員協議会などとの定期的な協議・意見交換の場はあったが、幅広く地域諸団体・機関を交えた地域ぐるみの協議体の立ち上げを現在法人として進められているところであり、その進捗と活動の展開に期待したい。

### 第三者評価結果に対する施設のコメント

法人の中・長期計画については、来年の法人創立90周年を迎えるにあたり、新たに法人全体で取り組んでおり、来年度には報告ができることとなっています。

なお児童養護施設について、定員は来年4月より45名と5名減員し、10年後の現女子棟の老朽化に伴う改築に併せて小規模化に取り組む予定です。

ボランティアの受け入れ等のルール作りについては、個人情報保護の観点からも、さっそく他施設等を参考に取り組んでいます。

子育て支援事業の利用増に伴う広報等については、現在市より委託をうけている嬉野市生活支援体制整備事業や法人のホームページ等を活用し、幅広い周知を図りたいと思います。

第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） 養育・支援の基本方針と組織

### 1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
<p>1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	a
<p>【コメント】</p> <p>理念・基本方針は明確にされ、パンフレットやホームページ等で公表・周知されるとともに、各種文書、資料、掲示物等で発信されている。また、職員会議や職員研修での周知、保護者通信等での発信、子ども会や行事等の際に説明等がなされている。</p>	

1

### 2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
<p>2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。</p>	b
<p>【コメント】</p> <p>理事長が園長も兼務される中、全国組織や県内の施設協議会、市子ども子育て協議会、市要保護児童対策地域協議会など多くの機会を捉えて経営環境を取り巻く諸課題の把握、地域ニーズの把握に努められている。しかし、これらに対処していくための分析・検討が十分なされているとは言い難く、職員会議、役員会等での組織的な検討・論議がなされるよう望みたい。</p>	

2

<p>3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	a
<p>【コメント】</p>	

3

組織体制や設備整備、職員体制、財務状況など具体的な課題や問題点などは、法人本部事務局会議や人材育成委員会等で論議され、役・職員への周知を図りながら取り組まれている。

### 3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果		
<p>4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>b</p>	<p>4</p>	
<p>【コメント】 定員や施設の一部改築を踏まえた構想もこれからの課題とされているが、福祉施策の動向の変化等も有り、法人の中長期的な計画が明確にされているとは言い難い状況にある。中・長期計画策定に向けた組織的取り組みが望まれる。</p>			
<p>5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/>単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>b</p>	<p>5</p>	
<p>【コメント】 年度計画は、具体的に作成・実施されている。しかし、中・長期的な計画が明確にされているとは言い難いため、将来的課題に対しての取組結果の評価・分析が必ずしも十分なされているとは言えず、中・長期的な計画作成とそれに基づく年度計画の作成が望まれる。</p>			
(2) 事業計画が適切に策定されている。	<p>6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/>計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>6</p>
<p>【コメント】 毎年度の事業計画は、職員会議や法人の全体会議で前年度計画の評価とともに論議のうえ役員会で審議決定されている。また、事業計画の職員等への周知もしっかりとなされている。</p>			
<p>7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/>事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p>	<p>b</p>	<p>7</p>	

	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。 <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】	子ども達に対しては、各棟の自治会などで説明されている。年度末に作成する保護者通信、保護者との随時の面談時の説明などに一層の工夫ができないかと考えられており、その検討の進展に期待したい。	

#### 4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果	
	<p>8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p> <input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。 <input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。 <input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。 <input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	a	8
【コメント】	第三者評価や毎年の自己評価を実施し、職員会議等での論議がなされるなど養育・支援の質の向上に向けた組織的な取り組みがなされている。		
	<p>9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p> <input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。 <input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。 <input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。 <input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。 <input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	b	9
【コメント】	職員会議での論議、職員間の情報の共有など評価結果に基づく改善への取り組みが見られるが、評価結果や改善計画等の記録・整理が把握しにくい状況にあり、記録・整理の充実が望まれる。		

#### 施設の運営管理

##### 1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果	
	<p>10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	a	10
【コメント】			

法人の理事長及び兼務する施設長として、職員に対する経営方針等の周知、理解促進に努められている。また、副施設長以下の役割分担等についても明確にされている。

11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。		

【コメント】

関係機関・団体等からの情報収集や、研修等の機会を活用して遵守すべき法令等の把握理解に努められている。また、職員への周知、遵守にも努められている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	12
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。		

【コメント】

個を大切にするとともに、各職員の支援方法を尊重しつつ養育・支援の質の向上を目指し、定期的な評価・見直し、職員研修等に取り組まれている。

13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	13
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。		

【コメント】

経営改善や人員・組織体制の整備、業務の効率的執行に向けて職員会議や各種委員会、法人の全体会議などで論議しながら取り組まれている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	14
---	---	----

第三者  
評価結果

<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

【コメント】

法人全体で人材育成委員会を組織し、福祉人材の雇用、専門職の確保をはじめ、新採から中堅、指導に当たる幹部職員、各専門職員と階層別、分野別にわたる体系的な研修が計画的に実施されている。

15 総合的な人事管理が行われている。	a	15
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。		
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。		

【コメント】

法人として就業規則を初め人事基準に関する諸規程が整備されている。自己評価・上司との面談などの人事考課、人事異動希望調査が毎年実施されるとともに、法人内の他の施設や部門との人事交流も考慮されている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	16
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

健康診断を初め、ストレスチェックの実施とそれらのフォロー、リフレッシュ休暇(連続有給休暇)の利用促進、有給休暇の取得促進、育児・介護休業制度の利用促進など働きやすい職場環境作りに努められている。また、今年度から永年勤続表彰制度の充実に図られている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。		
<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		

	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

毎年度末に実施される各職員との個別面談の際に、自己評価などとともに次年度の目標設定を行い、職員の研修計画への反映、受講支援もなされている。

	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】

研修・教育に関する計画が定められ、それに基づき職員の意見を聞きながら教育・研修が実施されている。毎月の学習会も行われている。

	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		

【コメント】

新任、中堅、幹部職員、各専門職員それぞれに法人内外の研修・教育の受講機会の確保に努められている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】



実習プログラムに基づき学校との連携を密にし、実習指導の担当職員のもとで実施されている。しかし、実習受け入れに関する取り扱い・手順等の一層の明確化について課題が認識されており、論議の進展に期待したい。

### 3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
<p>21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の意味や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	a	21
<p>【コメント】</p> <p>ホームページを活用して法人運営に係る理念や事業計画・事業実績、予算・決算状況などを公開するとともに施設内での閲覧に供している。また、必要に応じ、パンフレットなどが配布されている。</p>		
<p>22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	a	22
<p>【コメント】</p> <p>会計規程などの諸規程が整備され、それに基づき法人全体として内部牽制を行いながら運営されている。顧問の公認会計士による財務会計処理についての指導を受けるとともに、公認会計士を含む監事監査体制による法人運営がなされている。</p>		

### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
<p>23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。</p>	a	23
<p>【コメント】</p>		

少年野球やバレーボールなど地域のスポーツクラブへの子どもたちの参加、地域での買い物、学校の友達の来所などの日々の活動とともに、地域に開かれた夏祭りなどの法人の行事や職員や子どもたちの地域行事への参加など相互に交流する機会の確保に努められている。また、学習ボランティアの来訪などボランティアの受け入れもなお一層積極的に取り組みたいと考えられている。

24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している		
<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。		

【コメント】

絵本の読み聴かせや学習など、ボランティアの受け入れに積極的に取り組まれている。しかし、受け入れに関する基本姿勢や受入れにあたっての手続きやルールが明確化されていないのでこれらを明確にすることが望まれる。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	25
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。		
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がいない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		

【コメント】

学校を初め各関係機関・団体、地域団体等との連携が図られ、随時連絡・協議の機会も設けられており、これらの情報は、職員間でも情報の共有化が図られている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。		

【コメント】

法人全体として介護や子育て支援など、法人が有する施設や人材を活用し地域交流を意図した支援に取り組まれている。施設の専門性を活かした地域のニーズに応える取組みについて、「十分ではない」との課題認識もされており、一層の充実に向けた取組みに期待したい。

27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

地域の福祉ニーズを踏まえた子育て支援短期事業（ショートステイ事業及びトワイライト事業）などの取り組みがなされている。従前から民生・児童委員協議会などとの定期的な協議・意見交換の場はあったが、幅広く地域諸団体・機関を交えた地域ぐるみの協議体の立ち上げを法人として、現在、進められているところであり、その進捗と活動の展開に期待したい。

適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	28
28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。		
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。		

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援の基本方針を明確にし、職員会議やケースカンファレンス、研修会等で認識を深めるとともに職員間の情報の共有化を図る取り組みがなされている。

29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a	29
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。		
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。		
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。		

不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。

【コメント】

プライバシー保護など子どもの権利擁護については、規程や具体的なマニュアルも整備され、職員会議や職員研修等で周知されるとともに日々の業務の中で取り組まれていることが伺える。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。

a

30

理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。

施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。

施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。

見学等の希望に対応している。

子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。

【コメント】

施設見学や相談受付は、要望に応じて随時行われている。保護者に対する情報提供については、毎年1回保護者通信を発行している。個々の事例については、内容により児童相談所との協議や施設側の判断で対応されている。また、個人情報保護等に関する取扱いについては、同意書の取り交わしもなされている。

31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。

a

31

養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。

養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。

説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。

養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。

意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。

【コメント】

養育・支援の開始にあたっては、子どもや保護者に対し個々の状況に応じて園のしおりやパンフにより説明されている。個人情報保護を初めとする必要な同意書の取り交わしもなされている。なお、最近の事例の多様化・複雑化に伴い保護者との面談が困難な場合もことから、情報提供の方法や内容、書式などの見直しが検討課題と考えられており、その論議の進展を期待したい。

32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。

a

32

養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。

他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。

施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。

施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

【コメント】

措置変更や退所の際は、個々の状況に対応する形で必要な文書の交付、説明がなされている。また、子どもや保護者に対し、退所後も随時相談に応じることを周知されている。なお、個々の状況に対応した説明内容・方法の工夫が検討課題と考えられており、その論議の進展を期待したい。

<p>(3) 子どもの満足の向上に努めている。</p> <p>33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	<p>第三者 評価結果</p> <p>a</p>	<p>33</p>
<p>【コメント】</p> <p>各棟の自治会での意見・要望の把握、毎月のアンケート調査、ご意見箱の設置などにより子どもたちが自由に・要望を述べるができるよう配慮されている。これらの意見・要望については、職員会議、隔月開催の子どもを守る会で検討され対処されている。</p>		
<p>(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。</p> <p>34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。</p> <p><input type="checkbox"/>苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。</p>	<p>a</p>	<p>34</p>
<p>【コメント】</p> <p>苦情解決にあたっては、匿名性の確保や必要に応じた聞き取りなどに配慮し、子どもを守る会や法人の苦情解決委員会で論議・検討し、対処されている。結果等については、必要に応じ、ホームページなどで公表されている。</p>		
<p>35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。</p>	<p>b</p>	<p>35</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちには担当職員に限らず、いずれの職員にも相談できること、ご意見箱への投書や学校の先生への相談、児童相談所に直接相談するなどの方法があることを周知されている。なお、保護者に対する特段の周知は行なわれておらず、その取組が望まれる。</p>		
<p>36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。</p> <p><input type="checkbox"/>対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。</p>	<p>a</p>	<p>36</p>

<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

毎月のアンケート調査を初め、子どもたちからの相談等については、随時あるいは隔月の子どもを守る会で検討し対応する組織的取り組みがなされている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。 第三者  
評価結果

37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。		
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。		
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

緊急時の対応マニュアル等が整備され、職員や子どもたちへ周知されている。また、毎月、避難訓練も実施されており、安心・安全な養育・支援の実施にかかる組織的な取り組みがなされている。

38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。		
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。		
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。		

【コメント】

感染症予防等の安全衛生に関するマニュアルが整備され、職員や子どもたちへの周知されている。また、手洗い・うがい等の実践を通じて、日頃から子どもたちへ衛生・健康管理に関する意識付けがなされている。厨房職員はもとより、全ての職員及びお弁当づくりや調理実習の機会がある高校生以上の子どもたち全員に対して、毎月の検便検査が実施されている。

39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	39
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。		
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。		

	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	

**【コメント】**

防災計画が整備・周知され、消防や警察と連携した定期的な訓練が行われている。法人全体において、自衛消防隊を組織し、毎月の避難訓練の実施、小学校低学年児童の登下校時の見守りなどの取組も行われている。また、備蓄品リストに基づく災害対策用品の備蓄管理、自治体との災害対策協定に基づく連携・協力も図られている。

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
----------------------------	-------------	--

<p>40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。</p>	a	40
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

**【コメント】**

園の基本方針とともに基本的な援助指針が整備され、職員への配布、職員会議等での周知が図られている。養育・支援の実施状況は、ケース記録や日誌などに残されており、園長以下関係職員は、随時その状況を閲覧・把握することができる。

<p>41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。</p>	a	41
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

**【コメント】**

標準的な実施方法については、定期的に又は必要に応じ随時に評価・見直しがなされている。

### (2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

<p>42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。</p>	a	42
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	

【コメント】

標準的な実施方法に基づき、各専門職を含む職員の全体会議において自立支援計画の作成、評価・分析、見直しが行われている。

	<p>43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。</p>	a	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

自立支援計画は、年2回の定期的見直し、必要に応じて行う随時の見直しについても、各専門職を含む職員の全体会議において作成、評価・分析が行われ、見直しがなされている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

	<p>44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p>	a	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。		
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。		

【コメント】

養育・支援の実施状況は、ケース記録、日誌等に記録され、関係職員は随時閲覧・確認、記録記載ができるようになっている。

	<p>45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p>	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。		



<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	
<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	
<b>【コメント】</b> 法人全体で個人情報保護に関する規程が整備され、職員への周知・教育されている。また、業務別のパソコン端末管理、ケース記録等の記載・閲覧・保管・管理等の取り扱いについても明確に規定されている。	

内容評価基準（41項目）A - 1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
<p>A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/>養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。</p> <p><input type="checkbox"/>職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/>受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。</p>	a	A1
<b>【コメント】</b> 施設では、養育・支援の有り方を専門職員のスーパービジョンはもとより、職員会議、ケース会議などで検討し、情報の共有化を図り、一貫性をもって行えるよう努められている。定期、随時の支援計画の評価、見直しなども行われている。		
<p>A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/>事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	a	A2
<b>【コメント】</b> 子どもの生い立ち等の告知については、個々の子どもの心身の発達段階を考慮し、児童相談所等関係機関と連携しながら職員会議で論議検討し、職員間で認識を一つにして全員で取り組まれている。		
(2) 権利についての説明		
<p>A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>定期的に全体の中で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p>	a	A3

	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	

【コメント】

権利ノートを活用して子どもたちに説明するなど理解を深め、日々の生活の中で実践する取り組みが行われていることが伺える。職員会議や職員研修等の場での周知・認識を深める取り組みも行われている。

(3) 他者の尊重

	<p>A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p>	a	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。		

【コメント】

日々の個別的取り組みはもとより、子ども間のトラブルもお互いに話をして解決できるよう支援したり、子ども自身が考えて行動できるよう支援するなど、積極的に子どもに係わっている姿勢が伺える。

(4) 被措置児童等虐待対応

	<p>A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p>	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。		

【コメント】

就業規則等に明記し、職員会議等で機会あるごとに周知、論議するとともに、職員の研修も取り上げて学習されている。また、毎月の子どもたちへのアンケート調査、外部委員を交えた隔月開催の子ども守る会での検討など関係機関との協力・連携にも配慮して対処されている。

	<p>A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p>	a	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。		
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。		

	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。		
【コメント】			
<p>子どもへの不適切な関わり防止と早期発見について、対応マニュアルが整備されており、就業規則にも規定されている。また、職員会議等で機会あるごとに周知されるとともに、子どもたちが自分自身を守るための方法を学ぶ機会の確保にも努められている。</p>			
	<p>A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p> <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。 <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。 <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。 <input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<p>a</p>	<p>A7</p>
【コメント】			
<p>子どもの権利ノートを活用し、また、虐待防止のマニュアルを定め、職員会議・職員研修などでその周知徹底、意識の向上に努められている。また、子ども達に対し、いじめの防止、職員等への相談・訴えにいつでも応える旨を周知する取り組みがなされている。</p>			
(5) 思想や信教の自由の保障			
	<p>A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。</p> <input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。 <input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。 <input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<p>a</p>	<p>A8</p>
【コメント】			
<p>施設の基本理念が仏教理念に由来していることを入所前から保護者や子どもに対し説明するとともに、思想・信条、宗教の自由は保障されている旨説明し、理解を求めよう配慮されている。日常生活の中での宗教行事は、実施されていない。</p>			
(6) こどもの意向や主体性への配慮			
	<p>A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されるに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p> <input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。 <input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。 <input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	<p>b</p>	<p>A9</p>
【コメント】			
<p>入所前の相談や施設見学に積極的に対応するとともに、保護者や児童相談所などからの情報の入手に努め、支援計画の作成や入所準備を行い、子どもが安心して入園生活ができるよう配慮されている。しかし、これらの一連の手順について必ずしも明確化されているとは言い難いので、その明確化を図ることが望まれる。</p>			
	<p>A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	<p>a</p>	<p>A10</p>

	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	

【コメント】

各棟の自治会での話し合い、子どもたちへの毎月のアンケートなど、意見や要望の把握に努めながら基本の日課や生活改善に向けた取り組みが展開されている。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

	<p>A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。</p> <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。		
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。		

【コメント】

地域のバレーボールクラブや少年野球チームへの参加、中高生のクラブ活動など子どもたちの自主的な活動に対する支援が積極的に展開されている。図書や雑誌の整備、テレビやゲームの利用などについても、子ども達の意見を聞きながら取扱いのルール作りがなされるなど、子どもたちが主体的に考え過ごせるよう配慮されている。

	<p>A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。</p> <input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	a	A12
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。		

【コメント】

子どもの発達段階に応じて、小遣い帳の記帳、職員との同行あるいは子ども単独での買い物を通じて、お金の管理や自立に向けた貯蓄管理を覚え、金銭感覚・経済観念が身につくように支援されている。また、自立を控えた高校生には、お弁当を含めた1週間の食材準備に始まる食事作り等自立生活体験にも取り組まれている。

(8) 継続性とアフターケア

	<p>A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活が送ることができるよう復帰後の支援を行っている。</p> <input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	a	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

家庭復帰にあたっては、児童相談所等の関係機関と協議・連携しながら保護者への説明を行い、家庭復帰後も随時相談を受けることや相談できる関係機関や支援団体等の情報提供がなされている。家庭復帰後の状況把握については、保護者との関わりのが難しい場合もあることから苦慮されているが、今後も、できる限り働きかけを継続されるよう望みたい。

	<p>A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。</p>	b	A14
<p>【コメント】          高等学校教育修了を目指して、保護者や児童相談所等と協議しながら支援されている。既に、高校修了まで措置を延長した事例も有り、今後も高校卒業後に進学・就職した子どもであっても、必要があれば同様に支援を継続していくこととされている。</p>			
	<p>A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。</p>	a	A15
<p>【コメント】          退所後も、随時、相談や来訪を待っていることを周知するとともに、支援・相談に係わる関係機関・団体等の情報が伝えられている。また、退所に向けては、食生活指導を初め生活全般に亘る自立支援・指導・訓練が行われており、雇用事業所等との連携にも配慮されている。退所者の来訪も随時あり、職員や子どもたちとの交流の場となっている。</p>			

## A - 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	<p>A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	第三者 評価結果 a	A16
<p>【コメント】          子どもたちに寄り添い、共に歩む日々の活動の実践に取り組まれている。その様子は、毎月のアンケート調査や子ども会活動などの状況から十分伺える。</p>			
	<p>A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p>	a	A17

<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	
<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	
<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	
<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	

【コメント】

日々の取り組みの中で、子どもたちの欲求・ニーズの把握に努め、子どもの意思を尊重して柔軟に対応されている。幼児の添い寝や見守り保育、小学生の学習指導や遊び、中高生の学習塾への通塾やクラブ活動、アルバイト就労など、個々の状況に応じて柔軟に対応されている。

A18 子どもを信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a	A18
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。		
<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。		
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

幼児から高校生まで幅広い年齢層があり、多様な日常生活パターンを過している子ども達をしっかりと見守り、自主性を尊重し、支援する姿勢が十分伺える。

A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a	A19
<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。		
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。		
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

子供の発達段階に応じた玩具や遊具、図書類が整備され活用されている。また、毎月のアンケート調査、隔月の外部委員を含めた子供を守る会の開催など、子どもたちの状況把握に努めるとともに、地域の各種機関・団体、ボランティアの協力・支援のもと、子どもたちの生活の場・活動の場の確保・拡大に努められている。

A20 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
--	---	-----

<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です秩序ある生活が営まれている。	
<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	
<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	

【コメント】

和顔愛語（いつも明る やさしい言葉）、照顧脚下（毎日反省 明日への糧）、一期一会（今日 今は再び戻らず）、主人公（己も 他人も大切に）の法人の基本理念のもと、落ち着いた環境、穏やかな雰囲気の中で子どもたちが生活している様子がうかがえる。発達段階に応じて食事作りや整容、買い物をはじめとする社会生活を体験する機会を数多く設け、自立のために必要な知識の習得に取り組まれている。少年野球やバレーボールなど地域クラブへの積極的な参加を図るなど、地域社会との交流・関わりにも配慮されている。

(2) 食生活

A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a	A21
<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。		
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気です、常に清潔が保たれている。		
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。		
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。		
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。		

【コメント】

食事場所の環境整備がなされ、適時・適温の食事提供、食生活習慣の形成に向けた取り組みが展開されている。クラブ活動や通塾等、子どもの事情に即した食事時間や弁当準備等の配慮がされている。また、誕生日の希望食作り、行事食、お出かけの食事会など食事を楽しむ機会の確保にも配慮されている。

A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。		
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。		
<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。		

【コメント】

年2回の嗜好調査、毎月のアンケートの結果等を踏まえ、子どもの心身の状況に応じた食事提供に努められている。アレルギーなど子どもの健康状態に対応した食事や、必要に応じ学校給食に代わる弁当の持参などにも配慮されている。

A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a	A23
---	---	-----

<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	
<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ の 摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	
<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	
<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	
<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	

【コメント】

献立表の掲示、各種行事食や旬の食材を用いた料理、おやつ作りや調理の手伝い、お弁当作り、食材の買い物等、発達段階に応じて食事作りや食習慣の習得に向けた取り組みが展開されている。また、自立に向けて、必要な食材や調理レシピ情報の配布、調理の実習指導がなされている。

(3) 衣生活

A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。		
<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。		
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】

衣類の清潔保持、整理・保管、季節に応じた衣類の着用等、発達段階に応じた支援・指導がなされている。また、子ども自身の嗜好にも配慮した買い物支援、中高生本人による買い物などの自立に向けた取り組みもなされている。

(4) 住生活

A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。		
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		



	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	
--	--	--

【コメント】

園は、男女別棟で、小規模グループホームも整備されており、温もりのある生活環境に配慮されている様子が十分うかがえる。

A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。		
<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。		
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。		

【コメント】

ユニットケアや小規模グループケアを行い、また、各人の年齢や性格、生活態度等を考慮しながら個室への移行をする等、発達段階に応じ自立した生活環境づくりに配慮されている。施設面の制約もあり、ユニットは個室ではなく2人部屋であるが、リビングや静養室、学習スペース等の確保に配慮されている。

(5) 健康と安全

A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a	A27
<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。		
<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。		
<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。		
<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。		
<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。		

【コメント】

子供たちの毎日の清潔保持、整容に留意している様子が十分うかがえる。衣類や寝具の清潔保持・管理についても適切に配慮されている。施設内外での安全管理についても、学校を初め、地域の各種団体等と連携・協力を得ながら取り組まれている。

A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。		
<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。		
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		

職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。

【コメント】

学校等も含め、年2回の健康診断と年1回の歯科検診はもとより、定期的を受診が必要な子どもの受診、服薬管理等を通じて、嘱託医・関係医療機関と連携した子どもの心身の状況把握、健康管理に努められている。

(6) 性に関する教育

A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。

b

A29

他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。

性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。

性についての正しい知識、関心を持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。

必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。

【コメント】

児童相談所の協力を得て、男女別や発達段階に応じて勉強会が行われ、日常生活の中での言葉や行動についても注意喚起がなされている。外部の専門家(NPO)を活用した教育活動の展開も始まっており、これらの取り組みに期待したい。

(7) 自己領域の確保

A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。

a

A30

子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。

身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。

個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。

紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。

個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。

まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。

【コメント】

日常生活用品や衣類等は、各人の持ち物をできるだけ特定し、記名・整理保管等も発達段階に応じて、生活習慣作りの一つとして支援がなされている。購入に際しては、できるだけ本人の好みを尊重した買い物を支援し助言するように配慮し、子ども自身による購入の取り組みがなされている。

A31 成長の記録(アルバム等)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。

b

A31

子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。

成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。

<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	

【コメント】

子ども一人ひとりの成長の収集、記録保存に配慮され、必要に応じ閲覧等ができるよう保存されている。個人毎の記録の整理・保管はされていないが、必要に応じて随時にあるいは施設退所時や退所後においても本人の希望に応じて記録の閲覧、配付がなされている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。		
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。		

【コメント】

職員のスキルアップを図るため職員研修に積極的に取り組み、心理療法士を初め職員への相談が随時できることを子ども達に周知されている。また、行動上の問題が出現した際は、児童相談所を初め関係機関との緊密な連携を取りながら対応されている。

A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。		
<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。		
<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

各自の居室以外の他の居室へ断りなく入室しないこと等を初めとして、他の人々との言葉や態度・接し方等について子どもたちの意識を深める取り組みがなされている。毎月の子ども達へのアンケートや聞き取り、小中学校長等外部有識者を交えた隔月開催の「子どもを守る会」での討議など、事例の発生防止に努められている。また、職員研修等で職員の人権意識を高め、日常の実践に繋げる取り組みがなされている。

A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		

	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	

【コメント】

職員間で子ども一人ひとりの情報を把握・共有し、児童相談所、学校等との連絡通報体制、施設内外の安全対策が講じられている。

(9) 心理的ケア

	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。		

【コメント】

心理療法士が配置され、自立支援計画に基づき子どもとのプレイセラピーの実施等心理支援プログラムによる支援がなされている。心理的ケアの必要な子どもの情報は職員間でも共有され、児童相談所等の関係機関と連携しながら組織的取り組みがなされている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。		

【コメント】

学習ボランティアの活用、職員による施設内での公文学習の実施、中学・高校生については本人の希望を踏まえて学習塾への通塾など個々の心身の状況に応じた支援がなされている。

	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		

<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	
<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	

【コメント】

中学生の頃からそれぞれの進路や目標について保護者、学校、児童相談所と話し合い、支援がなされている。高校卒業後の進学希望についても相談を受け支援に努められている。最近、中卒児・高校中退児の支援事例は見られないが、自立に向けた的確な支援に努めることを認識されている。

A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。		

【コメント】

学校でのインターンシップの機会等を活用して、職場実習や職場体験の拡大に努め、事業者との情報交換にも努められている。また、アルバイトについても本人の意向、学校や事業主との連携・協力体制の確保に配慮したうえで進められている。これらの取り組みには、一層の充実を図る必要があると考えられており、その取り組みに期待したい。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。		
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

家庭支援専門員を中心に職員が連携し、児童相談所や学校等の関係機関も含めて支援方針を定めて、家族との信頼関係の構築に取り組まれている。

(12) 親子関係の再構築支援

A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a	A40
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		

	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	
【コメント】		
児童相談所等の関係機関との情報共有、連携を入所時から密にしなが、それぞれの家庭の事情や課題などを踏まえた支援に取り組まれている。		
(13) スーパービジョン体制		
	<p>A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。 <input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	b A41
【コメント】		
今年度から基幹的職員が配置され、体制の充実が図られている。今後の組織的な取り組みの推進に期待したい。		